

# 知的資本



## 蓄積した知見・ノウハウに、デジタルを掛け合わせ新たな価値を創出

### 価値創造の基盤となる多様な知的資本

#### 知的資本をグループの成長に活かしていくために

1960年代に模擬試験や通信教育講座を開始したベネッセグループは、その後語学や介護など多くの分野に事業領域を広げ、新たな市場を創造してきました。その過程で蓄積してきたマーケティングの知見や商品・サービス開発のノウハウは、グループの貴重な「知的資本」となっています。現在もさまざまな事業リサーチやアンケート調査などの研究開発活動を展開しており、それらはより優れた商品・サービスの創出とともに知的資本の拡充につながっています。

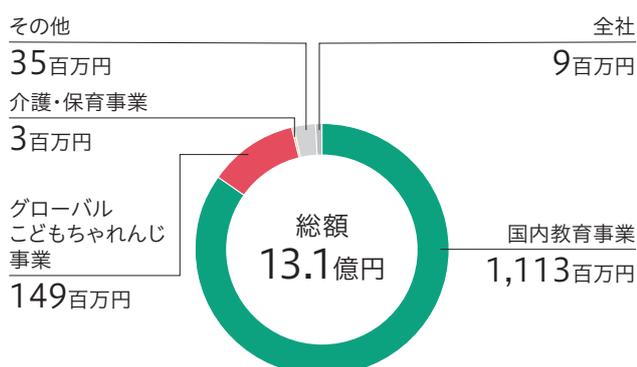
一方、ベネッセグループは、子どもの学習履歴や入居者の生活記録といったビッグデータや、長年の事業運営で得たノウハウのような暗黙知も数多く蓄積しています。こうしたビッグデータや暗黙知を先進のデジタル技術で分析・解析し、言語化・体系化していくことで、グループの成長を後押しする新たな価値の創出を目指しています。

#### デジタル技術の活用でさらなる価値の創出へ

蓄積した知的資本の価値を、デジタル技術を活用してさらに高めることで、さまざまな成果を上げています。例えば教育事業では、PCやタブレットで英語4技能をバランスよく学べる「英語4技能習熟度別トレーニング」や、タブレット型教材「チャレンジタッチ」、教育現場をサポートするクラウドサービス「Classi」など、競争優位性の高い商品・サービスを提供しています。今後もデジタルならではの機能やユーザーインターフェイスを積極的に導入するとともに、個々の受講者の学習状況をAIで分析し、最適なアドバイスを行うなど、商品・サービスのさらなる高度化も進めていきます。

また、近年デジタル技術を活用した教育ビジネスは、他産業からの参入の増加によって競争が激しくなっています。ベネッセコーポレーションでは、権利侵害リスクの未然回避と他社との差別化のために特許出願を検討しています。

#### 研究開発費内訳(ベネッセグループ、2018年度)



英語4技能も学べる専用タブレット「チャレンジタッチ」

## グループの知的資本を補完するシンクタンク

教育事業や介護事業で培った知見をベースに、独自の調査・研究活動を推進するシンクタンクとして「ベネッセ教育総合研究所」と「ベネッセ シニア・介護研究所」の2つの研究所を設置しています。各研究所では研究成果をグループ事業に

活用するだけでなく、レポートやWebサイト、シンポジウムなどを通じて広く社会に発信することで、教育問題や高齢者問題などの社会的課題の解決に寄与しています。

### ベネッセ教育総合研究所

#### 多角的な調査・研究の成果を社会に還元

ベネッセグループの複数の研究部門が統合し、2013年に誕生した社内シンクタンクです。子育てや教育環境を総合的に捉え、乳幼児から大学生、社会人、保護者、先生など、幅広い範囲を対象に、教育分野において多角的な調査・研究を行っています。

研究所は4つの研究室で構成され、各研究室では国内外の教育機関や研究者とも連携。これからの社会で求められる資質・能力、それらを身に付けるための方法、テスト理論に基づくアセスメントなど、それぞれの専門領域で研究を推進しています。1980年に前身の研究所を設立して以来、400を超える調査を実施しており、子育てや教育の現場で活用されています。また、近

年は教育事業における横断プロジェクトの支援にも注力しています。

#### 調査報告事例



「学びのプロセスの可視化」で育む生徒の学びのデザインカ (岐阜市教育委員会との共同研究)



幼児期の家庭教育国際調査【2018年】



子どもの生活と学びに関する親子調査2017 (東京大学社会科学研究所との共同研究)

## 乳幼児から高校卒業までの親子の成長要因を可視化するパネル調査



ベネッセ教育総合研究所  
学び・生活研究室  
岡部 悟志

従来の数年おきの定点観測調査とは異なり、同一個人を毎年追跡するパネル調査では、子どもがいつ・どんなきっかけで発達・成長するのかが明らかとなります。例えば、平均的には小学校高学年から中学生にかけて学習意欲は低下することが知られていますが、個人の変化で見ると、中学生になっても変わらず意欲を維持していたり、逆に意欲が高まったりするケースが発見されます。そのような子はどんな学び方をして、

保護者は何を心がけて子育てに向き合っているのでしょうか。全国約2万組の親子が残した膨大なデータには、今の親子が直面する課題とその解決へ向けてのヒントが隠されています。それらを東京大学との共同研究により、学術的に分析・可視化し、学会や事業・メディアを通して社会に発信しています。

現在、乳幼児対象と小中高生対象の2つのパネル調査を実施していますが、2023年にこの2つを接続する予定です。これによって、乳幼児から高校卒業までの発達・成長プロセスが追跡できる、他に例のない調査となります。エビデンスに基づく教育の質の向上に一層貢献していきます。